

市民との意見交換会 報告書

| | |
|----------|--|
| 意見交換会案件名 | 伊万里YEG 11月例会 伊万里市議と語ろう会 |
| 日 時 | 令和2年11月24日（火） 18時45分～20時30分 |
| 場 所 | 伊万里商工会議所4F 大ホール |
| 議 題 | ・魅力ある伊万里にするためには |
| 参 加 議 員 | 馬場 繁 坂本 繁憲 加藤 奈津実（記録） 川田 耕一 西田 晃一郎 山口 常人 岩崎 義弥 中山 光義（司会） 山口 恭寿 前田 久年 盛 泰子 |
| 開 催 方 法 | 4テーブル6～7名ずつに分かれ、各テーブルに議員2名を配置。 ワールドカフェ方式で1つのテーマについて語り合う。 ※ワールドカフェ方式とは、各テーブルを国に見立て、自国で話し合う→別の国に旅行して新たな情報を得る→自国へ戻ってきて情報を共有する、という話し合いの手法です。 |

Aテーブル

| | |
|------|-----------------------|
| 参加者 | YEG 6名 |
| 担当議員 | 坂本 繁憲（記録）、山口 常人、山口 恭寿 |

◆発表内容

- ・空き家対策として、古民家を短期間無償賃貸とし、体験滞在や民泊に活用し、移住・定住を図る。
- ・伊万里は何もないのではなく、自分たちが伊万里をよく理解していない。
自然豊かであり、田舎が好きな人も多くいる。もっと田舎の良さをPRしていくべき。
大川内山だけではない、海、山、川の資源が多い街であることを取り上げ、移住・定住促進によって若い人を増やす取り組みをする必要がある。
- ・街中・商店街の発展のため、ゼロベースからイベントの企画を考え、人を集め、移住・定住に繋げる。
- ・伊万里ならではの大学などの教育の場をつくり、就職し、定住してもらおう。

◆その他

- ・子どもが暮らしやすい環境づくりが大切。
- ・武雄市は活気がある。スターバックスが進出してほしい。
- ・UIJターンを含め、他市から就職してくる取り組みを大学等へ発信してほしい。
- ・観光への取り組みが弱いと感じる。もっと伊万里市の特産を市外へPRを。
- ・外国人研修生の交流の場があったらいい。
- ・閉店した玉屋の活用ができないか。
- ・新しい産業の創出や番館の拡大など。
- ・若者が増えるよう、大学があれば働き手も増える。
- ・ふるさと納税での商品のPRを。
- ・伊万里マップでエリアの良さをPRしてほしい。
- ・アニメの発信によって伊万里の良さをPR。
- ・小学生の時から遊び感覚でビジネス教育をやれば地元に残る可能性がある。
- ・高校生のアルバイトの緩和。

Bテーブル

| | |
|------|-----------------|
| 参加者 | Y E G 6名 |
| 担当議員 | 西田 晃一郎（記録）、盛 泰子 |

◆発表内容

- ・高校生がアルバイトして地元企業との繋がりが持てるように、Y E Gを筆頭に県に要請したり嘆願書を出したりしてもいいのでは。
- ・小中学生向けに経済学や起業するために必要なこと、簡単なお金の話（使い方や稼ぎ方）や税金の話などの授業や地元企業の出前講座をする。
- ・伊万里までのアクセスを分かりやすくする。
- ・U I J ターンの優遇制度、活用できる補助金などの情報を一つにまとめて分かりやすく発信する。
- ・私たち大人の一人一人が「伊万里はなんもない」ではなく「何もないのが贅沢」を子どもたちに伝えて郷土愛を育む。

◆その他

- ・若者が、伊万里に帰ってくるためには、起業支援が必要。
- ・起業支援は、I T以外。中高生から教育する。ベンチャー企業を育てる。
- ・伊万里ならではの取り組み。県外から呼び込む。生産年齢人口を増やす。
- ・優秀な人材を流出させない流れをつくる。
- ・高校生に専門性の高い学科をつくる。
- ・高校生のアルバイトの規制を緩和する。アルバイトの推進。
- ・小学生に、人としての教育が必要。大人も立派なモデルになる必要がある。
- ・小学生から就業体験が必要。経済を学ぶ機会。中卒でも起業できるように。
- ・お金の価値を知るための学び。
- ・伊万里の良さを再発見し発信することが必要。
- ・トンテントン、どっちゃん祭り以外に、伊万里の企業が集結してイベント。企業のP Rや就活支援。
- ・I T企業と付き合いすることで、自分たちの幅を広げる。
- ・I Tを学び、便利と不便を知る。
- ・伊万里へ出張で来たI T関係者向けのシェアハウスを市街地につくり、交流を生む。
- ・専門学校や大学を誘致する。
- ・コミュニティセンターを活用し、周辺部のコミセンへ人が流れるようにする。
- ・佐賀市（県庁）へ行く、公共交通（直通）が無い。アクセスが悪く、市外からの呼び込みに不便。

Cテーブル

| | |
|------|----------------------|
| 参加者 | YEG 6名 |
| 担当議員 | 馬場 繁、川田 耕一（記録）、岩崎 義弥 |

◆発表内容

- ・フォレストアドベンチャーのような地域資源を活用した大人も子供も遊べる公園を整備して、市内外から人を集める。
- ・入札など市内企業を優先してほしい。
- ・ふるさと納税の売上アップを図るために、デザイン、プランニングなど、伊万里の魅力をもっと掘り下げる必要がある。
- ・情報収集、情報発信にもっとプロの力、外部の優秀なデザイナー等を入れることで多くの人の目に触れるようになるのではないかな。

◆その他

- ・商店街に銭湯を作してほしい。
- ・ふるさと納税返礼品の発送用の段ボール箱をデザインして統一してほしい。
- ・要求要望を叶えるためにはお金が必要。企業はどんどん事業で稼いで納税して雇用を生んで定住者を増やすことが地元企業の使命。

Dテーブル

| | |
|------|------------------|
| 参加者 | YEG 7名 |
| 担当議員 | 加藤 奈津実（記録）、前田 久年 |

◆発表内容

- ・市内の高校生に働くことの意味や働いて賃金を得ることの達成感を知ってほしい。
商工会議所でアルバイト推奨店舗を作ってアルバイトをできる環境を整えたい。
- ・企業誘致をする前にアンケートを取るなどして市民の声を聞いてほしい。
- ・空き家のリノベーションを小中学生にアイデアを出してもらって一緒に行く。
今後の空き家問題を小中学生に知ってもらい、一緒に解決することにも繋がる。

◆その他

- ・農家での作付けや収穫体験、収穫物の調理などの体験を増やしたい。
- ・市内業者が一堂に会してお店を開くお祭りのようなイベントがあったら。
- ・森永とコラボしてお菓子の神様をもっとアピールする。
- ・ゴミ処理場からでるエネルギーを利用してハウス運営ができないか。
- ・大川内山キャンプ場の再開。星野リゾートのような旅館に来てもらえないか。
- ・子どもたちへの投資施策、通学路の安全対策などに力を入れてほしい。
- ・コンビニと提携しての子ども食堂など、貧困対策ができないか。
- ・ハトバスのような観光案内をして、観光客も市民も伊万里市について知る機会を。
- ・伊万里市の企業でキッズニアのようなことをする。
- ・子どもが産まれた人に市の特産品を詰めたプレゼントをしては。
- ・家庭内での決定権は女性にある。女性の移住促進をするべき。
- ・伊万里市ならではの専門学校をつくる。
- ・空き家で移住体験してもらい、YEGや消防団などとの交流の場を設け、より移住しやすいイメージをつくる。

◇Y E G 総括：上原会長

熱のある意見がたくさん出た。いろんな業種の若手が集まる青年部ならでのこと。市議の皆さんとこういう場を設けて普段考えている意見が出せたのはいいこと。だが、私たちは青年経済人として、自営業者として、伊万里に住む市民として、自分たちで行動するという責任があると思う。今日言ったことは「いい話を聞いたな」では私たちはいけない。例えば今日聞いた話で、私たち一個人でできることもある。自分たちの企業でできることもある。青年部という団体でできることもある。行政にして頂くように、商工会議所は政策提言ができる組織。私たちが政策提言を上げたら伊万里市も無視はできない。そういったことを考えて、青年部のメンバーでも話をまとめていって、よりよい魅力ある伊万里にするんだということを本気で考えているんだしたら、私たちが実際に動くべき。

先日、日本Y E Gの米良会長が講演で仰ったが、今回のコロナ禍で私たちはいろんな補助金だったり助成金だったりを頂いた。それで助かったが、これは本当は未来の子どもたちのために使うお金だったんじゃないか。それを私たちが使って、今この場に立っている。そのことを忘れてはいけない。これからの私たちの行動が未来の子どもたちから見られて、試されているんだと思う。そういう意味で、今この状況で自分たちの会社を守ること、自分たちの家族を守るとはとても大事。しかしやはりこの伊万里、この日本、この世界を見て、次に自分たちに何ができるかを真剣に考えないといけないと思う。

今日はせっかくこうして市議の皆さんと交流することができたので、今後の気さくな交流に繋がる今日のこの場であればと思う。

◇まとめ

- ・ 45歳以下のメンバーで構成されている商工会議所青年部（Young Entrepreneurs Group）と初めての意見交換会を行い、活気ある熱のこもった意見がたくさん出た。
- ・ 出される意見の中で既に市が行っているものもいくつかあり、それらが充分に知られていないので情報発信に課題があると感じた。
- ・ 出された意見をこの場限りのものにせず、議員同士でも意見を交わして今後の政策提言に繋げていくことが必要。



